

# 【瑞穂市】平成29年度全国学力・学習状況調査の結果

## (1) 全国学力・学習状況調査について

【目的】 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析したことを、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、子どもたちに21世紀を生き抜くための「確かな学力」を身に付けさせることを目的に国が実施。

【実施日】 平成29年4月18日（火）

【調査対象】 小学校第6学年、中学校第3学年

【調査内容】 ①教科に関する調査（国語、算数・数学）  
・主として「知識」に関する問題（A）  
・主として「活用」に関する問題（B）  
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査



## (2) 瑞穂市全体の傾向

### ①教科に関する調査より

#### 【小学校】

- ・国語A（主として「知識」に関する問題）は、全国や県の平均正答率とほぼ同じ。
- ・国語B（主として「活用」に関する問題）は、全国や県の平均正答率をやや下回っている。
- ・算数は、A、B共に、全国や県の平均正答率をやや下回っている。

国語では、「漢字の読み書きの問題」に弱さが見られたが、「叙述をもとに、理由を明確にして自分の考えをまとめて記述する問題」はよくできていた。

算数では、「図形領域の問題」や「意味や理由、求め方などを記述する問題」に弱さが見られた。

#### 【中学校】

- ・国語は、A、B共に、全国や県の平均正答率をやや上回っている。
- ・算数は、A、B共に、全国や県の平均正答率を大きく上回っている。

国語では、小学校と同様に「漢字の読み書きの問題」に弱さが見られたが、「話す・聞くの問題」はよくできていた。

数学では、「関数の問題」と「三角形の合同条件を使って証明する記述問題」がよくできていた。

### <今後の指導について>

上記の結果から、瑞穂市全体として語彙力に弱さがあると考えられるため、語彙量を増やし、語彙力を伸ばしていく指導を大切にしていく。

（例）

◇普段の授業の中で、分からない言葉を辞書を使ってどんどん調べ、文脈の中で語句の意味を考えられるようにする。

◇学校、家庭、地域において読書を大切にすることで、より言葉や文章に触れる機会を増やすとともに本を好きな子どもを育て、「読書の町 みずほ」をつくっていく。

### ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査より

#### 【小中学校】

- ・「朝食」や「就寝時刻」、「起床時刻」など、学習を支える規則正しい生活習慣が身に付いている児童生徒が多く、家庭と連携した生活習慣や学習習慣づくりが大切にされている。
- ・地域の行事に参加している児童生徒は、全国に比べて非常に多く、地域の中で子どもたちが活躍し、地域の中で育てられている。
- ・学校の先生が自分のよいところを認めてくれていると感じている児童生徒が全国に比べて多く、教師が子どもたちのよさを認め励ましたり、子どもたち同士で互いのよさを認め合ったりする活動が大切にされている。
- ・普段の読書量が全国に比べて少なく、学校、家庭、地域が連携して読書の推進を図っていく必要がある。

今後も、こうした市の現状を受け、今後も日々の学校生活を充実させ、子どもたちに確かな学力を定着させられるよう取り組んでいく。